## 栄光時計 Presents 世界の至宝展

# 選び抜かれた優美な煌めきの数々で特別なひとときを

### 3月15日・16日 ANTHOLOGY in OSAKA リーガロイヤルホテル３F

**個性と感性が調和する作品に注目**

全国に7拠点を持つ栄光時計㈱（代表取締役：岩﨑伸一）は、3月15日（日）・16日（月）の2日間、リーガロイヤルホテル大坂で、「旅」をテーマにした関西最大級のユーザー展「世界の至宝展〜ANTHOLOGY in OSAKA」を開催する。

ANTHOLOGYには栄光時計の7拠点からの顧客を中心に、全国のVIP客が、国内外の選りすぐりの至宝のジュエリーを楽しみにやってくる。

世界の選び抜かれた優美な煌めきの数々と特別なひとときを堪能できる今回のANTHOLOGYでは、特に日本を代表する作家たちにスポットを当てる一方で、海外ブランド、希少性の高い宝石、日本の宝石、ファッショナブルジュエリーのほか、高品質ダイヤモンドをあしらった腕時計、世界的芸術家など個性と感性が調和する作品にも力を注いでいるので着目したい。

前回のANTHOLOGYが終了した翌日から、全国のスタッフが総力を上げて準備してきた。真のジュエリーを日本のジュエリー文化として伝え、国内外に発信することが栄光時計の役割にもなっている。ブランドの魅力だけではない日本のジュエリー文化について考えてみることも楽しみの一つにしたい。

**心が満たされる満開の桜**

会場入口には、日本人の心を満たしてくれる満開の桜が綺麗に咲き誇る。来場者を特別な空間へと導く500本の圧倒的な数の桜は感動的でもあり、フォトスポットとして毎年人気のエリア。日本のジュエリー文化をイメージしながら眺める桜もきっと日常より魅力的に目に映ることだろう。

時代に合わせた新規顧客の開拓にも目を向ける栄光時計であっても、リピーター客はまだまだ多い。そんな成熟したリピーターをも飽きさせないために、顧客目線で広い視野をもって前回を振り返り、昨年以上に楽しめる企画やサービスを毎回考え、ANTHOLOGYを進化させてきた。それでもジュエリーの魅力の違いを一つでも多く伝えることが、この先のジュエリー業界の活性化に繋がっていくことが一番大切なこと。

**脚光を浴びる個性的な日本の作家**

Pick up Brandは、ドイツ仕込みの優れた技術と手作りの温かみのある作品を出品する日本の匠で国立美術館収蔵作家の「Funakushi」をはじめ、自然界をテーマに作品を作り続ける、村松司さんのオリジナルジュエリー「TSUKASA MURAMATSU」、今年設立40周年を迎える「Shudo」は、ジュエリーを通していろんな「想い」をカタチにしている。

さらに、自らデザインし制作まで手掛け、自らの工房を持つジュエリーデザイナーのグループ「ARTISAN VILLAGE」の6名、柏倉主和さん、伊藤恵子さん、雨宮ジロウさん、簑和田幸恵さん、岩間大さん、今井繁さんにも注目。

それぞれの感性が作品に忠実に表現され、作りにも誇りが感じられ、それぞれの作品は個性的に輝いている。

その他、国内外のジュエリーコレクション、ウオッチコレクション、バッグやコートなどが多数用意される。

**スペシャルゲストとスペシャルランチ**

特設ステージにて毎回立ち見が出るほど好評となるトークショーの今回のゲストは2人。15日は、モデルとしてキャリアをスタートさせ、テレビドラマや映画で活躍する一方、バラエティー番組にも登場するなど幅広く活躍中の沢村一樹さん。16日は、兵庫県出身の俳優で、宝塚歌劇団の看板スターとして活躍。退団後は、舞台を中心に幅広く活躍し、受賞歴多数の大地真央さん。どちらもテレビなどでは聞くことのできない貴重な話が聞けそうだ。両日の時間はともに11時30分と14時30分から。

ANTHOLOGYのスペシャルランチは、「和」をテーマに、リーガロイヤルホテルのスペシャルランチ懐石料理を用意。司会タージンの愉快なトークによるランチショーでは、蓮風RENPUによる和太鼓の鼓動、飯田華那さんによる繊細な津軽三味線のコラボレーション、PoPo-ZuDaのサンバを楽しめる。

## 「本物」を若い世代に伝えるため MISS ANTHOLOGYを毎年輩出 3月15日にGALA PARTY

世界の至宝を披露するアンソロジーの真の目的は、「美しさ」「センス」「個性」をキーワードに、品質、デザイン、制作に拘りをもつブランドや作家を伝え、国内の宝飾市場を盛り上げていくこと。

高い技術を有しながら華やかなデザインで魅了する海外ブランドをはじめ、日本人らしい緻密な制作で個性あふれる作品など、追及された「技術」（ものづくり）、「価値」「デザイン」「希少性」などの本当のジュエリーの魅力がどこにあるかを正確に伝えていくことだ。

言い換えれば、顧客が求めるジュエリーを日頃から小売店が紹介することができているか、顧客の想像を越える作品を手に取らせているか、そして小売店の役割とはなにかを考える機会を同時に創出していると言える。

その様な想いから、3年前より「若い世代に本物を届ける」ための活動を行うインフルエンサーMISS ANTHOLOGYを決める「GALA PARTY presented by EIKO WATCH」をANTHOLOGYの初日15日の19時より開催し、グランプリを決定する。

既に選考を勝ち抜いたファイナリストの8名が、ジュエリーを着用したモデルとしてANTHOLOGYにも登場する予定だ。会場でも投票できるので参加したい。

見事グランプリに輝くと、イタリアのラグジュアリーブランド「Leo Pizzo」のジュエリーまたはイタリア研修旅行が授与される。若年層にも「本物」と出会い、なぜ「本物」が長く愛されるのかを体験して欲しいという考えからの副賞であり、そこから同企画がスタートしている。

初代MISS ANTHOLOGYの中村里彩さんは、イタリア研修に行った時の感想として「日本では見かけないユニークなジュエリーに目を奪われた。大胆なデザインと創造的な発想に、ヨーロッパならではの魅力を感じた。種類の豊富さにも驚き、文化の違いを感じた」と感動していた。

このような知見があるかないかでは、その先が大きく異なってくる。

実際に中村さんは、MISS ANTHOLOGYの活動外であっても、ジュエリーコーナーに足を運ぶ機会が増え、自分自身でジュエリーを購入。毎日つける度に「今日も頑張ろう」とジュエリーが自信を与えてくれ、ジュエリーに触れる度に安心感を感じたと述べている。

小売店が日頃の商売で見つける「世に発信すべき言霊」が溢れている。

**考え直すべきビジネススタイル**

現在のジュエリー業界は、低迷というよりもバラバラ。ジュエリー離れを信じ込んでいるのに何故かそこそこ売れていることで迷走状態。しかもヒット商品を見ることなく、既存のモノだけで勝負していることが延々と続いている。その上で次世代の顧客開拓や若年層へのアプローチが行われていない。小売店は委託商売をやめない。仕入になると売れるものがないと言う。

随分と前から本物のジュエリーを街の中で見る機会がなくなり、見かけるのはアクセサリーばかりで、アクセサリーとジュエリーの差を分からなくしてしまったのはジュエリー関係者と言っても過言ではない。

普段から本物を見ていなければ憧れは生まれない。それだけジュエリーを購入する機会を奪っているといっても否定はできないだろう。

いまは個性や自己表現を大切にする時代であり、ジュエリー本来の魅力が求められている。人それぞれのニーズに応えられるビジネスモデルも増え始めており、各小売店によるオリジナルジュエリーがあってもおかしくない時代になっている。

何を仕入れるのがベストか、迷った時こそ栄光時計に相談したい。

## 産地全体で技術を未来へつなぐ 愛情深い人材育成の仕組みが イタリアンジュエリーの強さ

イタリアンジュエリーを手に取ってみると、そこには長い年月をかけて築かれた「積み重ね」が感じられます。その歴史は、なんと紀元前のエトルリア時代にまでさかのぼります。当時の高度な金細工の伝統が、今のジュエリーの中にもごく自然に息づいているのには、本当に驚かされます。金を単なる材料としてではなく、その国の文化や心を映し出すものとして大切に扱ってきた歴史。そんな特別な感覚が、今を生きる職人たちの手仕事にも当たり前のように受け継がれています。

実際に作品に触れてみると、その作りの丁寧さがよく分かります。石留めの技術の高さや、立体的なデザインのバランス、そして身に纏った時のおさまりの良さ。華やかさはありながらも、派手になりすぎない落ち着きがあります。昔ながらの技術を大切に守りつつ、新しい技術も柔軟に取り入れていく。そうした工夫があるからこそ、普段使いできるけれどもしっかりと品がある、絶妙な仕上がりの作品が生まれているのだと思います。

デザインについても、イタリアらしい独特のバランス感覚が光ります。ボリュームがあるのに重たさを感じさせず、しっかりした形をしているのに、身に纏うと身体にすっとなじむ。街の中に建築や彫刻があふれている国だからこそ育まれたセンスが、ジュエリーという小さな世界にもさりげなく反映されているのでしょう。特別な日だけでなく、毎日の装いにも無理なく溶け込むこのバランスは、イタリアならではと言えるでしょう。

こうしたクオリティを支えているのは、人材育成の仕組みです。ヴァレンツァにある財団「マニ・インテリジェンティ」には、レオ・ピッツォなどの有名なメゾンが協力して、地域の金細工の文化を守り、若手を育てる活動をしています。企業の枠を超えて、産地全体で技術を未来へつなごうとする姿勢には、イタリアのものづくりへの深い愛情を感じます。また、「スクォーラ ブルガリ」のように、企業が自分たちで技術とブランドの魂を教える場を作っているのも素晴らしい点です。技術を一人ひとりの経験だけに任せるのではなく、みんなで共有して磨き続けようという意識がはっきりしています。

現場で働く職人たちの仕事ぶりも、とても誠実です。細かいところまで気を配り、最後の仕上げまで妥協しない。何よりも「良いものを作ること」を一番に考える姿勢。それが毎日の作業の中で積み重なって、ブランドへの信頼につながっています。職人を単なる作業員ではなく、ものづくりの主役として大切にする環境があることも、イタリアの大きな強みと言えるでしょう。

歴史、技術、デザイン、そして人づくり。どれか一つが優れているのではなく、それぞれが自然につながっていること。それこそが、イタリアンジュエリーの本当の力なのだと感じます。これ見よがしな主張はなくても、手にした時に伝わってくる確かな心地よさ。その安心感のある強さこそが、世界中でずっと愛され続けている理由ではないでしょうか。

**栄光時計株式会社**
**東京支店長　木村元亮**

ARTISAN VILLAGE 6名の作品は個性的に輝き、異なる感性、デザイン力、製法を持ち、互いに刺激し合う。互いにリスペクトし合い、ジャパンブランドとして世界に発信することを目指す。

岩間 大　簑和田 幸恵　雨宮 ジロウ

今井 繁　柏倉 主和　伊藤 恵子

## SPECIAL GUEST

会場内特設ステージにてトークショーをお楽しみください

**3/15 SUN**

**沢村 一樹** ①11:30〜 ②14:30〜

モデルとしてキャリアをスタート。テレビドラマや映画で活躍する一方、バラエティ番組にも登場するなど、幅広く活躍中。

**3/16 MON**

**大地 真央** ①11:30〜 ②14:30〜

兵庫県出身の俳優。宝塚歌劇団の看板スターとして活躍。退団後は、舞台を中心に幅広く活躍中。受賞歴多数。

開催時間はスケジュール調整により変更する場合がある。